

岐阜城と信長

愛知県（三河）へ就職。
興味に火をつけたのは、社内に、
羽柴、織田（信長傍系）、大谷（吉継の直系）が。
聞けば、他にも、戦国時代の歴史上の苗字が多い。
会社、関係先には、
徳川四天王と十二神将の苗字の揃い踏みで、
その中で、全国にある一般的家名は省略して、
井伊（直系）、榊原、米津、蜂屋、本多、鳥居、平岩等々。
ただ、松平はなし。

社内の先輩知人が、定年退職された井伊さんの家来筋で、
彦根城と歴史館館長をされ、案内していただいた。
知人は、面と向かって「殿」と言い、
井伊さんは、まれにみる、立派な容貌の主で、
血統の良さがあり、今は故人。
それ以来、井伊大老のファンになった。

他に、朝倉、小早川、九鬼、池田（輝政傍系 小生を指導）
根来（忍者衆で伊賀と対決？の子孫で一時、小生の部下）。

これでは、小生は、まるで、「戦国企業」に、摂津神戸から、
雑兵が入社したようなもの。
ご当地は、戦国から江戸時代のソフトとハードの遺産が多い。

さて、風薫り、新緑鮮やかな5月半ば、岐阜城へ。
長良川が北から南西方向へ転ずる、
右岸、いや、左岸？に位置する、
金華山（339m）の山上にある。

城前に平地はなく、稜線か尾根に築城され、
城の入口に立てば、何だか座りが悪く、
信長を髭髯させる不安定な安定感。

そそりたつ急坂で、当時の超難工事が想像でき、
平地を掘り下げた「ピラミッド建設」の方が容易？
井戸跡は、雨水貯水タイプ。
当時は、はるか下を見れば、長良川が豊富な清流。

著名な城主は、ご存じの齊藤道三と織田信長（1534-1582）
信長だけ「以後の三氏で矢に倒れ」と覚えた

70歳以上は、天下御免の無料の恩典で天守閣へ。
東南西北の佳景に恵まれ、来た甲斐がある。

城内に信長の使用した家紋の五つ木瓜（いつつもっこう）。
色鮮やかに大きく展示され、印象的である。写真添付。
家紋は他に六つあるそうで、
教科書にある「信長像」のオリジナルが豊田市に所蔵。
その長興寺の織田信長像では、家紋は「五三桐」



織田信長像（長興寺・国指定）

この山城は急峻な山上にあるため、
難攻不落の名城と言われたが、5回も落城し、
全ては城内での不和・内通・謀反によるとのこと。
ここも、国破れて山河ありの歴史の繰り返し。

信長居館跡の傍に、山内一豊と妻千代婚礼の地。
さらに、板垣退助の立像があり、明治15年、
金華山麓で、愛知県士族小学校教員に短刀で刺され遭難。

公園内の「岐阜市歴史博物館」では、
古墳時代の「鉄製短甲」「浮世絵の重ね刷り体験」、
圧巻は、「長篠の戦いの検証コーナー」。

学者らしき西欧人が、詳細に英語で同行者に、
関係する武将のややこしい名前も上げて、
屏風の前で英語で説明中で、かなり、研究しているようだ。
再訪したいと思わせる。

公園を出て、長良川の鶺鴒舟の出発地の「川原町」を散策。
通り広く、人まばらで、映画のセットのよう。
芭蕉も滞在したとかで、穏やかで童顔の像がある。
東を見上げると、岐阜城が遠望され、天気も良く、
旅行者と会話も楽しみ、のどかな美濃の一日。